

EIDAI

環境社会報告書

ENVIRONMENTAL & SOCIAL REPORT

2010

永大産業株式会社

木を活かし、よりよい暮らしを

人は遙か昔から「木」と暮らしをともにし、自然と調和してきました。しかし一方で人は物質的な豊かさを求め過ぎるあまり、深刻な環境破壊を引き起こし、その結果、真の豊かさとは何かを見失ってしまいました。私たちは住まいづくりの中で「木」を活かし、よりよい暮らしを実現することこそ、本当の豊かさであると確信しています。ただしそれは、この地球で「共に生きる」という思想のもと、持続可能な社会が確立して初めて可能になる、と考えています。

永大産業はそのような社会を構築するため、地球、社会、人との共生を通じて環境保全に取り組み、なお一層、社会に貢献する企業であり続けることを目指しています。

3つの共生を目指します

永大産業は、持続可能な木材資源の利用を推進するかわら、役目を終えた木製品や木質廃材が再び社会で利用されるよう、独自のリサイクルシステムで地球環境の保全に努めて参りました。当社は環境との調和を重んじ、地球との共生を継続していきたいと考えています。



永大産業は、社会の公器としての立場を認識し、広く情報公開を行い、透明性の高い経営に努めます。当社は法令を遵守し、社会的利益の還元を積極的に行うことで、これからも社会との共生を尊重していきたいと考えています。

永大産業は、誰にとっても健康的であり、なおかつ安全、安心に使えるモノづくりを目指しています。当社はそれら製品の使い易さ、快適さをさらに追求することで、人との共生をかたちにしたいと考えています。

目次

- 1 基本理念
- 2 編集方針・目次
- 3 トップメッセージ
- 5 会社概要

発行の目的

本報告書は永大産業の環境、社会に関する活動を、広く知っていただくために発行するものです。

編集方針

本報告書は持続可能な社会の実現に向け、永大産業の取り組みを具体的なデータを添えて掲載したものです。活動の内容については、個々の担当者によるコメントを記し、よりわかりやすくなるよう努めました。

報告対象範囲

永大産業株式会社(個別)
一部グループ会社の報告を含みます。

対象期間

2009年度(2009年4月から2010年3月まで)の活動を掲載していますが、一部2010年度における取り組みも報告しています。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

次回発行時期

2011年9月発行予定

お問い合わせ先

〒559-8658 大阪市住之江区平林南2-10-60
永大産業株式会社 経営企画部CSR推進室
TEL 06-6684-3062
FAX 06-6684-3068

環境報告

- 7 環境方針
- 8 木を活かした環境保全への取り組み

環境トピックス

- 9 **トピックス1** 環境配慮型フローリングの比率を2011年度中に100%へ
- 11 **トピックス2** 木製品の生産によって低炭素社会の構築に貢献しています

環境とともに

- 13 地球温暖化防止への取り組み
- 14 木を活かすリサイクル活動を行っています
- 15 マテリアルバランス/環境会計
- 17 環境への取り組み
- 19 環境マネジメントシステム
- 20 産業廃棄物削減への取り組み

社会性報告

お客様とともに

- 21 お客様相談センター
- 22 ショールーム
- 23 品質管理

従業員とともに

- 25 従業員とともに

地域社会とともに

- 27 地域社会とともに

マネジメント

- 29 コンプライアンス
- 30 永大産業企業行動憲章
- 31 コーポレートガバナンス
- 32 リスクマネジメント

- 33 サイトレポート
- 34 ホームページ紹介 編集後記

環境報告

環境トピックス

環境とともに

社会性報告

お客様とともに

従業員とともに

地域社会とともに

マネジメント

よりよい製品を提供し、社会

「環境創造型事業」をさらに推進

環境保護に対する意識が世界的にも高まる中、温室効果ガス削減に向けた様々な取り組みが始まっています。住宅産業においてもさらなる環境への配慮が必要になることはいうまでもありません。永大産業では「木を活かし、よりよい暮らしを」という基本理念を掲げ、全社を挙げて環境保全に取り組んでまいりました。

数ある資源の中でも、再生させることが可能である森林資源を継続して利用するために、業界に先駆けて森林認証材をはじめとする持続可能な森林の木を製品の原材料に使用してまいりました。また、未利用材等を無駄なく活用して生産された木質ボード(MDF)を原材料として、フローリングなどを生産する活動に力を入れてまいりました。さらに、廃木材も貴重な資源として循環させるため、木質ボード(パーティクルボード)を生産するマテリアルリサイクルや、エネルギーを取り出すサーマルリサイクルを行ってまいりました。

このように当社では、サステナブルな森林資源の利用やマテリアルリサイクルなど、木材資源を循環させる「環境創造型事業」を通じて、フローリングのほか内装材やシステムキッチンなど、住まいに役立つ製品を生産するとともに、環境への負荷低減に努めてまいりました。

この「環境創造型事業」をさらに推進することで、よりよい住まいづくりと、持続可能な社会の実現に貢献するものと考えております。

温室効果ガス抑制に貢献

「木」は循環可能な生物資源であり、二酸化炭素を吸収し酸素を供給しながら成長します。そして、伐採されて木質製品となった後も炭素を固定化しつづけます。このため住宅の部材に木材や木質製品を使用することで、長期間にわたって炭素を固

定しつづけることが可能です。

当社は木質製品を生産することにより、年間10万トンの炭素を製品の中で固定しています。これは年間約37万トンの二酸化炭素の排出を抑制したことに相当します。

当社では、二酸化炭素を始めとする温室効果ガスの排出を抑制することが、今後ますます大きな意味をもつものと認識し、木を活かした環境保全への取り組みに力を入れていく方針です。

フローリングの全てを環境配慮型に

当社では、森林認証材に代表される持続可能な木材資源を利用して、住まいづくりに必要な製品の開発をいち早く進めてまいりました。その一環として2009年に、「2011年度中にカタログ掲載されているフローリングの全てを、環境配慮型にする」計画を打ち出しました。2009年度末時点での環境配慮型フローリングの割合は40%に達しており、計画は予定通りに進んでおります。この環境配慮型への転換には、タスマニアンユーカリなどの森林認証材や、ヨーロッパビーチのように適切な森林管理が行われている持続可能な木材資源を利用して推し進めます。併せて、私たちの最も身近にある国産材も積極的に活用する考えです。これまでにも当社は国産材を利用したフローリングの生産や木質ボード(MDF)の活用を進めてまいりましたが、今後はさらなる用途開拓と新製品開発を行います。

当社ではこのような取り組みを推進し、計画を達成できるように努めます。

より高い倫理観・価値観に基づき行動

このような環境への取り組みを実践していくためには、社員全員が正しい見識を持ち、より高い倫理観・価値観に基づいた考え方や行動を行わなければなりません。当社は「永大産業企業

から評価される企業に

行動憲章」を定め、当社のコンプライアンスに対する考え方や姿勢を広く社会に宣言するとともに、役員、従業員の一人一人が倫理や企業理念に則った行動をするための指針を示しております。

社内では法務コンプライアンス室が中心となって、情報の適切な管理や知的所有権の取扱いといった日常的な事例の紹介など、具体的な啓蒙活動を進めております。

また、反社会的勢力に対しては毅然とした態度を貫き、社会から排除していくことが企業の社会的責任であると考え、「反社会的勢力排除マニュアル」を定めております。これらの団体と向き合うための基本方針を示し、全社を挙げて組織的に反社会的勢力の排除に取り組んでおります。

社会から評価される企業に

住まいにおける環境配慮への要求は、今後確実に高まっていくものとみております。

当社は、これまでに培った木質加工技術を駆使して、今後も環境に優しい資源である木を利用した質の高い製品を提供し、お客様から信頼されるものづくりで応える考えです。

こうした活動を通じ、豊かな社会を形成のための責任を果たすとともに、さらに社会から評価される企業になるよう努めてまいります。

代表取締役社長
吉川 康長

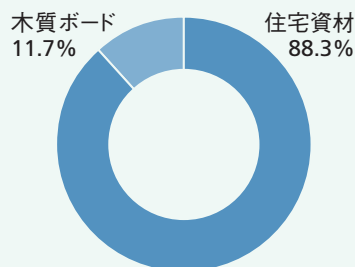


会社概要

会社概要

社名	永大産業株式会社 (Eidai Co.,Ltd)
創業	1946年(昭和21年)7月29日
本社所在地	大阪市住之江区平林南2丁目10番60号
資本金	32億8530万円(2010年3月末日現在)
従業員数	1143名(2010年3月末日現在)
製造拠点	大阪、敦賀、山口
営業拠点	東京、名古屋、大阪ほか全国41箇所
事業内容	住宅資材および木質ボードの製造・販売
上場	東京証券取引所 市場第二部(証券コード:7822)
グループ会社	小名浜合板株式会社(福島県いわき市) 永大テクニカ株式会社(大阪市) 永大スタッフサービス株式会社(大阪市) 永大テクノサポート株式会社(大阪市) エヌ・アンド・イー株式会社(徳島県小松島市)

事業別売上比(連結)



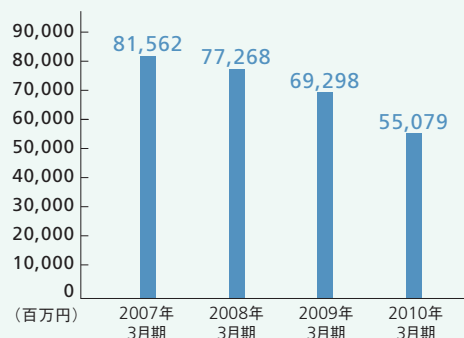
製造拠点

- 大阪事業所(大阪府堺市)
システムキッチン・室内ドア・収納・造作材
- 敦賀事業所(福井県敦賀市)
フローリング・一体型床暖房・室内階段セット・パーティクルボード
- 山口・平生事業所(山口県平生町)
フローリング・床造作材・パーティクルボード

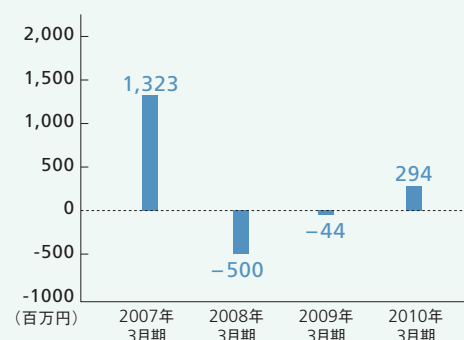
[グループ会社]

- 小名浜合板(株)(福島県いわき市)
パーティクルボード・収納・造作材・階段部材
- エヌ・アンド・イー(株)(徳島県小松島市)
MDF

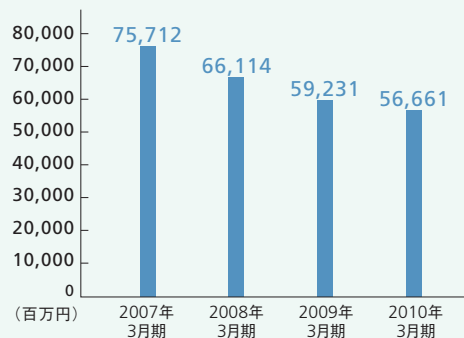
売上高(連結)



経常利益(連結)



総資産(連結)



営業拠点

札幌*、青森、盛岡、仙台*、山形、福島、新潟*、宇都宮、茨城、群馬、埼玉、千葉、柏、東京*、東京西、相模原、横浜、山梨、長野、金沢*、静岡*、名古屋*、三重、京都*、大阪*、神戸、姫路、岡山*、広島*、米子、山口、高松、松山、北九州、福岡*、長崎、熊本、鹿児島、沖縄*

*ショールームを併設

永大産業の各事業を紹介します



エコメッセージフロア



ビーチヨーロッパ階段



エコメッセージパートナー

フローリング・室内階段

素材を厳選し、
環境に配慮した製品を開発しています。

持続可能な森林資源を活用し、環境に配慮したフローリングや室内階段セットなどの製品を開発、生産しています。中高層市場向けの遮音フローリングや床暖房をはじめ、安心・安全で施工性に優れた高機能製品の品揃えを図っています。

建材事業部

取扱製品

フローリング、一体型床暖房、床造作材、壁材、エクステリア部材、室内階段セット、室内階段廻り部材



アーバンモード



リビングステージ



アルティモード

室内ドア・造作材・収納

最先端のデザインを製品に反映させるとともに、
短納期を実現しています。

常に次のトレンドを意識し、最新のデザインを室内ドアやクロゼット、シューズボックスなどの製品に取り入れています。また、見積りから納品まで一貫したシステムを構築することで、短納期を実現しています。

内装システム事業部

取扱製品

室内ドア、システム造作材、カウンター、クロゼット、シューズボックス、システム収納



ブレス



ゲートスタイルキッチンS-1
コンパクトゲート



ラフィナー

システムキッチン・サニタリー・バス

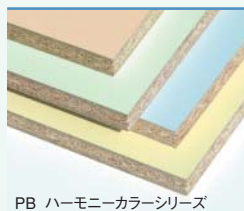
ステンレス加工技術を活かした、
使いやすい水まわり製品を提案します。

水まわりに最適なステンレス素材を採用し、独自の加工技術を駆使した、いつまでも美しく水じまいなどの機能に優れたシステムキッチンを中心に製品展開しています。

住設事業部

取扱製品

システムキッチン、洗面化粧台、トイレカウンター、システムバス、床下収納



PB ハーモニーカラーシリーズ



MDF



PB ウッディシリーズ

パーティクルボード

不用になった木質製品と未利用材を活用し、
木材資源の有効利用を推進しています。

ホルマリンの放散量を限りなくゼロに近づけたパーティクルボードを生産しています。不用になった木質製品を焼却せず、マテリアルリサイクルを行い、炭素を固定化することで、二酸化炭素の発生を抑制し、環境保全に寄与しています。

パーティクルボード事業部

取扱製品

パーティクルボード、MDF



環境方針

環境方針で4つの企業活動を定めています

永大産業では90年代から、部門や事業所単位で、個別に環境保全活動を本格化させましたが、21世紀を見据えたビジョンの中で、全社的な取り組みが必要との判断から、2000年6月、「永大産業の環境問題への姿勢」を制定しました。

2007年6月には「環境方針」を定め、当社の環境に対する姿勢を明文化しましたが、より一層環境に対する取り組みを強化し、社会的責任を果たす狙いから、2008年10月、「環境方針」を一部改正しました。

環境方針

[基本方針]

永大産業は、地球、社会、人との共生を通じて、環境保全に取り組み、なお一層の社会貢献を目指します。

[行動指針]

1 企業活動

1 温室効果ガス削減

エネルギー、水資源を有効に活用し、温室効果ガス排出量の削減に努めます。

2 3Rの推進

Reduce (発生抑制)、Reuse (再使用)、Recycle (再利用)の3Rを推進し、循環型社会の発展に寄与します。

3 化学物質の管理・抑制

管理基準を設定し、環境負荷の大きな物質の使用・排出を抑制します。

4 環境に配慮した木材調達

森林認証材、中でも植林木を積極的に採用し、環境に配慮した資材の比率を高めます。

2 社会的責任

法令を遵守し、地域との連携を深め、広く社会から評価される企業を目指します。

3 情報の開示

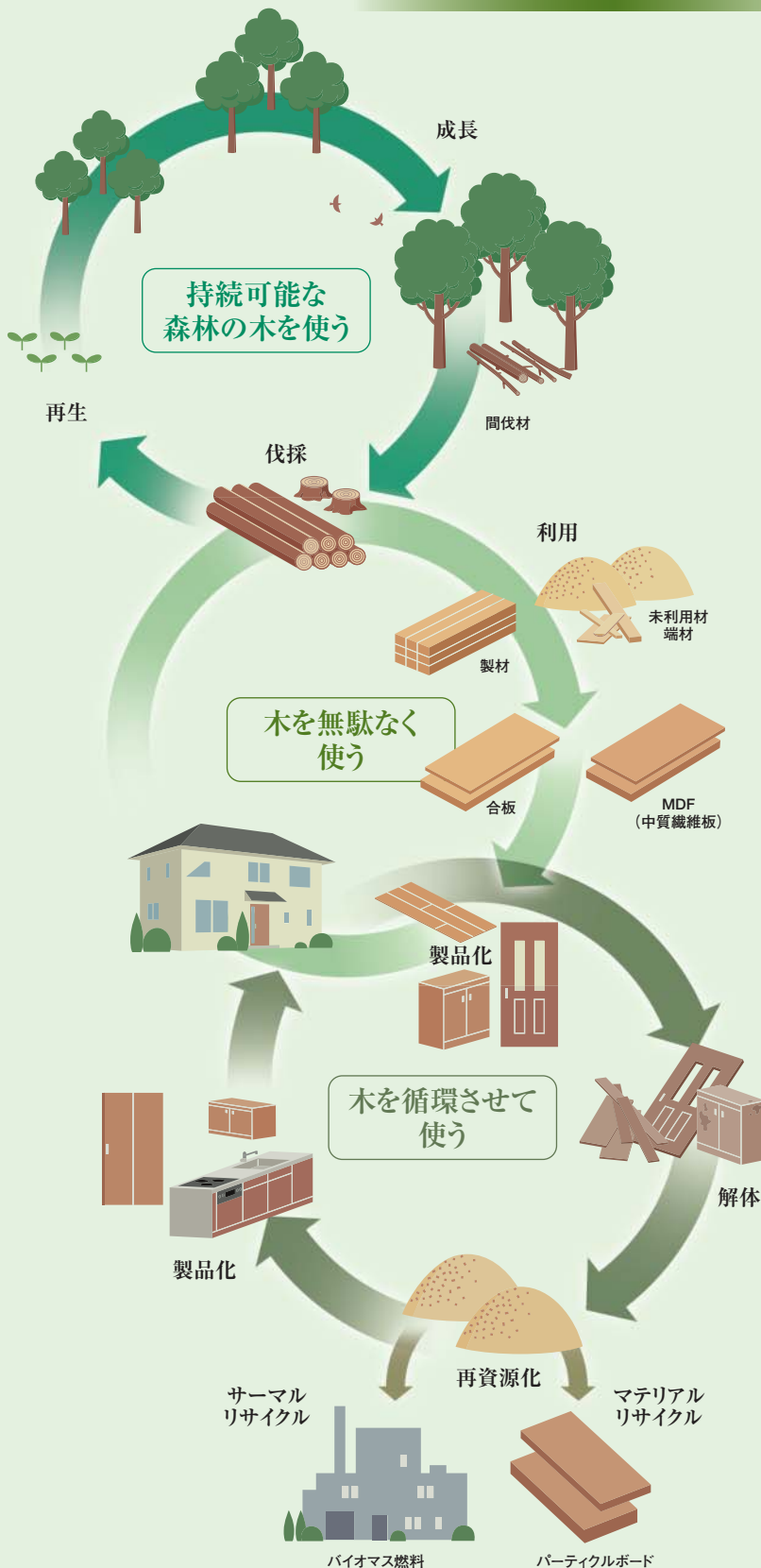
企業活動に関する情報は随時、開示します。

木を活かした環境保全への取り組み

「木」は地球にやさしい資源です
 永大産業は、循環の輪を広げていきます

「木」は再生できる地球にやさしい資源です。「木」の有効利用を図るには、「持続可能な森林の木を使う」「木を無駄なく使う」「木を循環させて使う」ことが重要です。当社はこの「3つの循環の輪」に沿って事業を展開することにより、なお一層、地球環境の保全活動に取り組んでいきたいと考えています。

3つの循環の輪



持続可能な森林の木を使う

貴重な森林資源を継続的に利用するためには、生態系を維持するなどの環境に配慮した木材調達の考え方が重要です。永大産業は製品の原材料に、世界的な森林認証制度であるPEFC認証を受けた認証材をはじめ、適切な管理が行われている植林木などを積極的に採用しています。当社は持続可能な森林の木を使うことにより、森林環境の保護に貢献しています。

木を無駄なく使う

木材資源を無駄なく利用するためには、木を加工・製品化する技術が必要になります。原木からは、製材品や合板などの木質製品がつくられますが、永大産業は長年培った技術を活かし、未利用材や木製品の生産工程で生じる端材などの残りの部分も無駄なく利用して、パーティクルボードやMDFといった木質ボードの原材料にしています。また、このボードを使用し、フローリングやシステムキッチン、収納製品などを生産しています。当社は、木を無駄なく使うことにより、一層の省資源化を図っています。

木を循環させて使う

「木」は循環可能な資源であり、長期間使用され、不用になった木質製品も資源となります。永大産業は、このような木質製品からパーティクルボードを生産する「マテリアルリサイクル(再生利用)」を推進しています。さらにこのパーティクルボードをシステムキッチンや収納製品のキャビネットに使用しています。またマテリアルリサイクルができないものについては、バイオマス燃料として「サーマルリサイクル」を行っています。当社は木を循環して使うことにより、二酸化炭素の排出抑制に力を入れています。

環境トピックス

1

環境配慮型フローリングの比率を 2011年度中に100%へ

環境配慮型基材の先進的取り組み

永大産業は永年にわたり環境配慮型基材を使用し、室内ドア、造作材やシステムキッチンなどの基材転換を完了しています。

一方、フローリングについては熱帯林を保護するため、ラワン合板から持続可能な森林資源への転換を目指し、業界に先駆けて森林認証材であるタスマニアンユーカリの製品化を実現させました。

当社では、2011年度中に当社の生産する環境配慮型フローリングの比率（カタログ掲載品）を100%とする計画を策定し、2009年度（3月末時点）の比率は40%でした。今後は高付加価値製品である一体型床暖房や、直貼り遮音フローリングについても、環境配慮型製品に移行し、計画の達成を目指します。



EIDAI action!

環境配慮型基材で製品を構成

合板メーカーとして出発した当社は、いち早く環境問題への対応を進めました。合板端材等の再生利用を目的に、パーティクルボードを生産し、積極的にキッチンや収納などの二次製品に活かしてきました。また未利用材等の有効利用を目的に、グループ会社のエヌ・アンド・イー社でMDFを生産し、当社製品の原材料として活用しています。今日、当社の製品はこれらの環境に配慮した基材で構成されています。



パーティクルボードはシューズボックスやシステムキッチンのボックスに、またMDFはクロゼットや造作材などの内装材に採用しています。さらに国産杉LVLは階段材の一部に用いています。現在開発中の新製品についても、環境への配慮を第一に考えています。

環境報告

環境トピックス

環境とともに

社会性報告

従業員とともに

地域社会とともに

マネジメント

環境配慮型フローリングの取り組み

国産材の利用を推進します

我が国は国土面積の約70%が森林です。森林は豊かな水や生態系を育むとともに、CO₂(二酸化炭素)を吸収し、地球温暖化防止に大きく寄与してきました。

しかしながら我が国では手入れの行き届かない森林が増加し、本来、森林が持っている公益的な機能が十分発揮されない状況となっています。この問題を解決するには「木を植え、育て、伐採し、利用する」といった森を循環させる取り組みが重要になります。

当社では、木材に圧密加工技術を施した複合フローリングや、独自の形状安定化処理技術による無垢フローリングを生産しています。また国産間伐材を利用したMDFをフローリングの基材の一部として採用する一方、階段材にも積極的に国産材を使用しています。

圧密加工技術

を利用した国産針葉樹の利用

材質の柔らかい国産針葉樹をフローリング等に用いるには、圧密加工技術が有効であり、当社は木材の圧密加工技術で特許を取得しています。また地域資源を積極的に利用する「地産地消」にも取り組み、2009年度は福井県産杉を用いた圧密木材で複合フローリングを生産し、県内の小学校に納めました。



国産間伐材

森林を健全に保ち、育てる

エヌ・アンド・イー株式会社では、間伐材を使用してMDFを生産しています。その中でもNEOボードSは、国産間伐材などを使用し、業界で初めて間伐材マークとサンキューグリーンスタイルマークを取得しています。



サンキューグリーンスタイルマークは、京都議定書で日本が森林で吸収するCO₂の割当比率をイメージしたもので、国産材利用を促す「木づかい運動」のシンボルマークです。

※エコメッセージのフローリング基材となるタフテックベースは、「NEOボードS」を使用しています。

国産材で

高機能無垢フローリングを生産

当社では国内林業の活性化を目的に、安定供給が可能で、物性的にも優れた栗材や耐久性の高い唐松を利用して、床暖房にも対応できる国産材無垢フローリングを生産しています。



ヨーロピアンビーチ

サステイナブルな森林経営の草分け



ヨーロピアンビーチの森

当社は、200年以上も前から計画的に伐採されているヨーロピアンビーチに、いち早く着目しました。環境負荷の低いヨーロピアンビーチは、ヨーロッパで家具や内装部材に用いられていましたが、当社はさらなる製品化に向けて技術開発を進め、フローリングの表面化粧材として実用化しました。

タスマニアンユーカリ

サステイナブルな森林経営からの木材、森林認証材



ユーカリの森林
(写真提供: Forestry Tasmania)

当社では、世界的な森林認証制度のひとつであるPEFC認証を受けたタスマニアンユーカリを、業界で初めてフローリングの基材としての製品化を図りました。タスマニアンユーカリは、豪・タスマニア州によって厳格な森林管理がなされ、安定的な木材供給の仕組みが構築された持続可能な資源です。

用語解説

圧密加工技術

木材を水蒸気で加熱しながら、プレスで圧縮し成形する技術。これにより表面の耐傷、耐凹み性能、曲げ強さなどが向上する。

木製品の生産によって低炭素社会の構築に貢献しています

循環型資源である木を原材料に

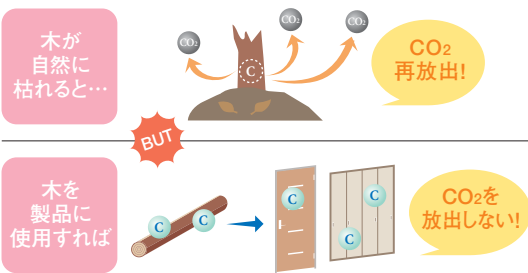
木は循環可能な生物資源であり、化石燃料や鉱物資源と異なって適正に管理すれば、半永久的に再生することができます。

永大産業は、このような持続可能な資源を原材料に、事業活動を展開しています。



木は C (炭素) の貯蔵庫といえます

低炭素社会の実現に向けて、森林のCO₂(二酸化炭素)抑制機能が注目されています。木は光合成により大気中のCO₂を吸収して、O₂(酸素)を作り出すとともに、C(炭素)を固定しながら成長します。木が枯れたり、木を燃やしたりすると、固定されていたCがO₂と結合し、CO₂となって排出されてしまいます。しかし木をそのまま製品として使用しつづければ、貯蔵庫のように長年に渡ってCを蓄えることができます。



木は生育時に大気中の二酸化炭素を取り込みます。木材は重量の50%が炭素であり、木材を住宅に多く使用すれば、長期間固定できる炭素の量も増加します。

住宅には大量の炭素が蓄積されており、さながら都市に森林が存在するといっても過言ではありません。永大産業は木製品を通じて、このような都市の森林化に寄与したいと考えています。

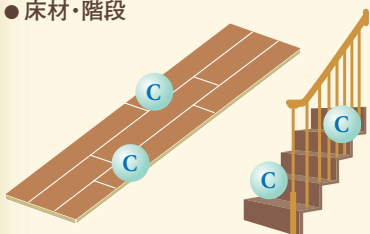


年間10万tの炭素固定を行っています

これは年間約37万tの二酸化炭素を抑制したことに相当します

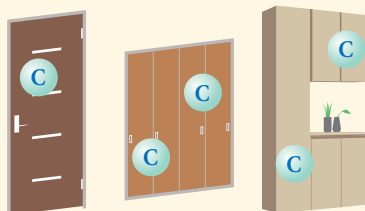
製品別炭素固定量

● 床材・階段



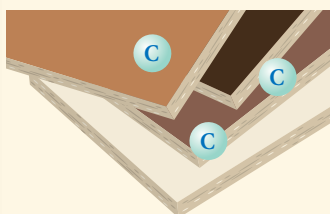
44,000 t

● 内装ドア・収納



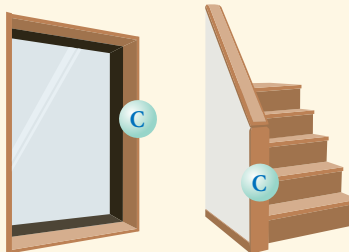
9,000 t

● パーティクルボード (PB)



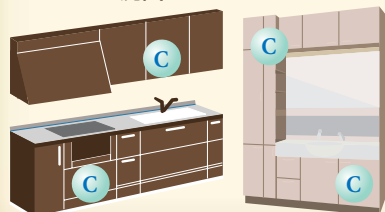
40,000 t

● 造作材・ドア枠



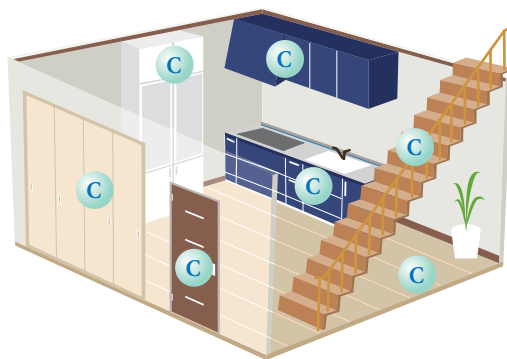
5,000 t

● キッチン・洗面



2,000 t

家庭のさまざまな製品の中に
C 炭素が固定されています

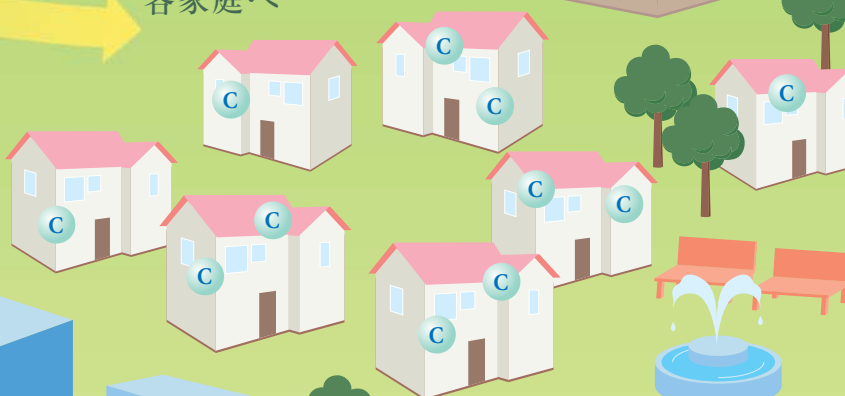


製品化による
炭素の固定

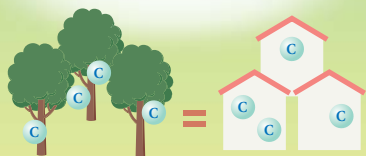
生産



各家庭へ



都市の
森林化に寄与





地球温暖化防止への取り組み

温室効果ガス削減の努力を継続します

地球温暖化問題が深刻さを増すなか、我が国は2009年9月、温室効果ガスの排出量を2020年までに25%（1990年比）削減すると表明しました。現在この25%削減に向けて、様々な取り組みが行われています。

永大産業では2006年度を基準年度とし、2011年度までに13%の温室効果ガス削減を目指してきました。3年目となる2009年度は、2011年度の目標数値を上回りました。

当社ではモーダルシフトの推進（物流）や、車両の小型化、台数の削減（営業）、節電の強化（本社）などに努めました。また2009年度は、住宅市場の大幅な需要縮小により、各工場（製造）で電気、重油などのエネルギーの消費が減少しました。

当社では引き続き省エネルギーの取り組みを行い、温室効果ガス削減に努める考えです。

中期目標（2011年度）の削減目標を上回りました

温室効果ガス削減目標一覧表

(単位:t-CO₂)

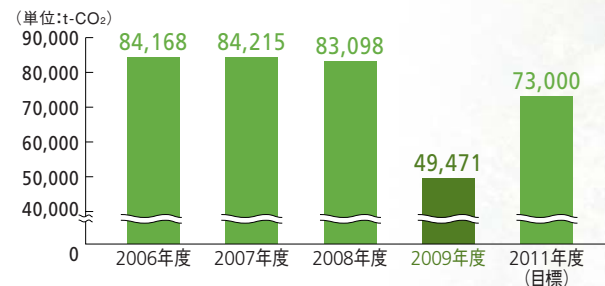
温室効果ガス 排出量	基準年度 (2006年度)	2009年度	目標年度	
			2011年度	2006年度比
製造	58,812	33,183	49,200	-16%
山口・平生	33,376	13,235	25,400	-24%
敦賀	23,350	18,245	21,900	-6%
大阪	2,086	1,703	1,900	-10%
物流	22,115	14,000	21,000	-5%
営業	2,041	1,460	1,700	-17%
本社	1,200	828	1,100	-6%
合計	84,168	49,471	73,000	-13%

※上記の数値は省エネ法の改正により、CO₂換算係数を変更しています。これにより、目標年度の2006年度比も-12%から-13%に変更しています。

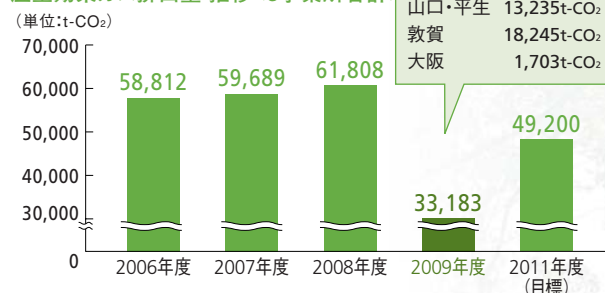
温室効果ガス削減対策

- 製造**
 - 設備対策:省エネ対策
 - ボイラーの燃料を化石燃料からバイオマス燃料に変更
 - コンプレッサーの効率運転
 - 高効率照明に変更
 - 効率化:業務改善による生産効率のアップ
- 物流**
 - 生産拠点の現地化による配送の合理化
 - 幹線輸送の環境に優しい貨物輸送方式の推進
 - 積載効率アップ
- 営業**
 - 車両台数の削減および車両の小型化
 - エコドライブによる燃料消費抑制
 - オフィスにおける節電の強化・残業の削減
- 本社**
 - オフィスにおける節電の強化・残業の削減
 - 車両台数の削減および車両の小型化およびエコドライブ

温室効果ガス排出量 推移<全社>



温室効果ガス排出量 推移<3事業所合計>



VOICE
従業員の声

環境負荷低減に努め、設備を改善

環境に対する負荷を下げ、より効率の良い生産を行うことが、私たち生産技術課の大きな役割であると考え、日々設備の改善、改良に努めています。

山口生産管理部 生産技術課
池本泰生



木を活かすリサイクル活動を行っています

マテリアルリサイクル 「パーティクルボード」

不用になった木質製品でパーティクルボードを生産し、循環型社会の形成に寄与しています

マテリアルリサイクルを優先

カーボンニュートラルの考え方では、不用になった木質製品を焼却して二酸化炭素を発生させても、それはもともと大気中に存在する炭素を成長過程で取り込んだものであるから、二酸化炭素の総量に変化はないとみなされます。しかし永大産業では、それらも大事な木材資源であり、焼却する前に、まず「マテリアルリサイクル（再生利用）」を行うべきと考えています。パーティクルボードは「マテリアルリサイクル（再生利用）」の典型的な製品であり、炭素を製品内に固定しつづける効果があります。

リサイクル可能な化粧PBを生産

永大産業の化粧パーティクルボードは、耐傷性、耐汚染性に優れた強化紙を用いています。化粧パーティクルボードのなかには、マテリアルリサイクルのできない製品も少なくありませんが、当社の化粧パーティクルボードは、古くなって使用できなくなっても、そのまま原材料に還元することが可能です。永大産業では循環型社会の確立に寄与するため、製品を市場に供給した後のリサイクルまで視野に入れた研究開発を行っています。



サーマルリサイクル 「バイオマス発電／バイオマスボイラー」

バイオマス発電でサーマルリサイクルを行い、事業所のエネルギーをまかなっています

サーマルリサイクルでエネルギーを確保

当社ではマテリアルリサイクルを優先させていますが、それができないものについては、発電用またはボイラー用の燃料としてエネルギーを取り出す「サーマルリサイクル」を行い、資源の有効利用を図っています。

山口・平生事業所では1993年度からバイオマス発電所が稼働しており、2009年度は、事業所内の工場でまかなう電力の21%をこのバイオマス発電でまかないました。

また山口・平生事業所のほか敦賀事業所でも、バイオマスボイラーを利用して蒸気エネルギーを発生させ、このエネルギーを主にパーティクルボードの生産に利用しています。



バイオマスボイラー

バイオマス発電所



マテリアルバランス 環境会計

MATERIAL BALANCE

永大産業では、様々な製品を生産するうえで必要な資材やエネルギーの投入量 (INPUT) と、その成果としての製品の量および廃棄物の排出量 (OUTPUT) の管理を徹底し、少しでも環境負荷の低減につながるよう努めています。

INPUT

製造

エネルギー



購入電力 51.5千MWh 前年度比 24.9%減



B・C重油 2,591kl 前年度比 53.8%減

LPG、軽油等 17千GJ 前年度比 32.2%減



バイオマス燃料

ボイラー用 269千GJ 前年度比 17.5%減

発電用 131千GJ 前年度比 15.5%減

水



上水 192千m³

工業用水 166千m³ 前年度比 18.6%減

地下水 20千m³

6千m³



資材

研究開発



環境会計

(単位:百万円)

	環境保全コスト	経済効果
研究開発活動	120	0

生産



大阪事業所



敦賀事業所



山口・平生事業所

環境会計

全社的な環境保全活動を行うとともに、より効果的な環境経営を目指す目的から、環境会計で環境保全コスト、および経済効果を算出しています。

分類	主な取組の内容	環境保全コスト
公害防止	大気汚染防止	106
	水質汚濁防止	15
	その他	1
地球環境保全	地球温暖化防止及び省エネルギー	60
資源循環	歩留改善による資源利用効率の向上	148
	水資源の効率的利用	
	廃棄物のリサイクル	
	廃棄物の適正処分	
小計		330
上・下流域活動	グリーン調達 (CoC認証材の調達 など)	27
	サプライヤーの環境管理活動支援	
	環境に配慮した製品の提供	
	省資源型製品梱包材及びリターナブル梱包材の利用	
小計		27
管理活動	環境マネジメントシステムの整備・運用 事業所の緑化、周辺地域の美化活動	23
小計		23
研究開発活動	環境負荷の低い素材を使用した製品の開発	120
	CoC認証材や国産木材を活用した製品の開発	
	製品リサイクル性向上の研究・開発	
	製造段階におけるVOC低減化の研究	
	製造段階における省エネルギー化の研究	
小計		120
環境損傷対応	水質関連補償金	3
小計		3
合計		503

- 集計範囲: 大阪事業所、敦賀事業所、山口・平生事業所
- 2009年度の環境保全コストは全て費用額で計上しています。
- 環境保全コストは5億300万円、経済効果は6億1,000万円でした。
- 参考にしたガイドライン: 環境会計ガイドライン2005 (環境省)
- 対象期間: 2009年4月1日～2010年3月31日
- 集計方法: 社内自主算定方法に基づいて集計

用語解説

マテリアルバランス 企業が事業活動を行うために投入する資源・エネルギー量、および排出する環境負荷物質の量 (廃棄物を含む) をあらわす。

物流

OUTPUT

製品輸送



トラック



モーダルシフト

詳しくは P17



船舶



鉄道



(単位:百万円)
経済効果

7

494

96

597

13

13

0

0

0

0

610

VOICE
従業員の声

将来はマテリアルフローコスト会計に

これまで環境会計を担当し、エネルギーの投入量と成果を把握してきましたが、将来は新しい環境会計の手法「マテリアルフローコスト会計」に取り組み、より生産性の向上とコストダウンを図りたいと思います。

山口生産管理部 総務課
河北三男



製造



温室効果ガス 33,183t-CO₂

詳しくは P13

前年度比 46.3%減

(電力の換算係数は、08年:実排出係数、09年:調整後排出係数を使用)



汚染ガス 規制遵守率 100%

SOx...3.6m³N/h NOx...110ppm



排水 規制遵守率 100%

BOD...23.0mg/l COD...39.0mg/l



廃棄物 最終処分量...511t

詳しくは P20



PRTR対象物

総排出量...1,653.8t
製品へ...1,644.8t
大気へ...4.3t
廃棄...4.7t



環境への取り組み

環境に配慮した物流により、温室効果ガス削減を図っています

製品の輸送にかかるエネルギーは非常に大きく、この段階でいかに温室効果ガスを減らすかが大きな課題となっています。永大産業では環境にやさしい物流対策を推進し、温室効果ガス削減に取り組んでいます。

物流部門 :: モーダルシフトを推進

永大産業では遠隔地への輸送に船を利用してきましたが、トラックだけで輸送できる地域に対しても、船や鉄道を組み合わせた輸送方式への切り替え（モーダルシフト）を進めています。当社では山口・平生事業所と敦賀事業所、お客様へのサービスを第一に考えながら、最も合理的で環境負荷の低いモーダルシフトに取り組んでいます。山口・平生事業所では2008年

6月から一部製品について新たに船を用いたモーダルシフトを行った結果、2009年度は277トンの温室効果ガスを削減しました。また敦賀事業所では、2010年2月以降、東北地方に運ぶ製品（フローリング）のうち一部を、トラック輸送から鉄道輸送に切り替えました。この切り替えにより年間21トンの温室効果ガス削減を見込んでいます。



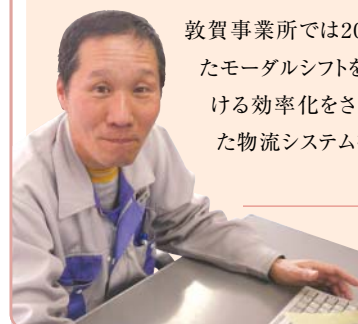
物流部門 :: 生産拠点を変更し、温室効果ガスを削減

西日本で生産していた製品の一部（ドア枠材、クロゼット枠材）を、東日本の拠点に移管することによって、関東・東北エリアへの出荷に要していたエネルギーの消費を抑制し、年間50トンの温室効果ガスを削減しました。

VOICE 従業員の声

より環境に配慮した物流へ

敦賀事業所では2009年度から鉄道を用いたモーダルシフトを開始しました。物流における効率化をさらに進め、環境に配慮した物流システムを構築する意向です。



敦賀生産管理部 物流センター
増田行男

環境に配慮した取り組みをご紹介します

:: グリーン購入に努めています 事業所

大阪、敦賀、山口・平生の3事業所では、グリーン購入法に基づいて、エコマーク、グリーン購入法適合マーク、エコ商品ねっと掲載マークの3つのうち、いずれかの環境対応商品マークのついた事務用消耗品等を、優先的に購入するよう努めています。



環境対応商品マーク

VOICE
従業員の声

**事務用消耗品も
環境配慮を優先**

山口・平生事業所では環境への配慮を優先させ、資材の調達だけでなく、事務用消耗品についてもグリーン購入を進めています。今後もグリーン購入に力を入れ、購入比率を引き上げていきたいと思えます。

山口生産管理部 総務課 藤井哲也

<p>「エコマーク」 (財)日本環境協会エコマーク事務局が制定</p>	<p>「グリーン購入法適合マーク」 グリーン購入法の対象品目およびその基準に合致する商品に表示</p>	<p>「エコ商品ねっと掲載マーク(=GPN db)」 グリーン購入ネットワークが運営するデータベースに掲載されている商品</p>
---	---	--

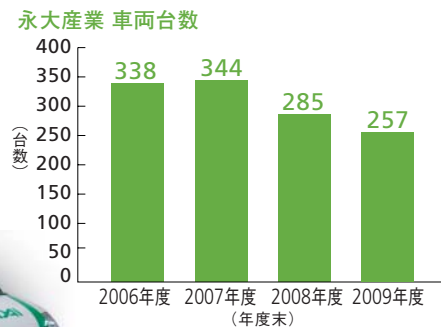
:: 合法的な木材調達を推進 全社

永大産業は、基本理念で地球との共生を掲げ、この中で持続可能な木材資源の利用推進を明示しています。当社はそれに基づいて、持続可能な森林管理が証明されている森林認証材を優先的に購入したり、また適正に管理された植林木の使用比率を高める努力を継続しています。さらに合法性を明らかにできるよう、取引先と協力して、産地・加工・流通経路に関するトレーサビリティの確保に注力しています。



:: 車両台数を適性化し効率的に運用 全社

永大産業では温室効果ガス削減の重点施策として、車両台数の適正化と効率的な運用を図っています。営業部門では低燃費の車両または小型車に変更するとともに、2009年度は前年比で28台の車両を減らしました。また事業部門では作業の効率化を図りつつ、2009年度は前年度比で38台のフォークリフトを削減しました。



用語解説

トレーサビリティ 原料調達から最終消費もしくは廃棄の段階までの過程を明確化し、さかのぼって確認できるようにすること。

グリーン購入法 正式には「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」、2001年4月施行。国などが率先して環境配慮製品を購入することで、それらの市場拡大を図るのが狙い。

環境報告書
環境トピックス
環境とともに
お客様とともに
従業員とともに
地域社会とともに
マネジメント



環境マネジメントシステム

ISO14001を全事業所で取得しています

永大産業では、環境保全活動を推進するために、環境マネジメントシステム(EMS)の取り組みを活動の基本と位置づけ、各事業所で目的・目標を定め、継続的な改善に取り組んでいます。

:: ISO14001認証取得

永大産業では、環境マネジメントの国際規格であるISO14001認証を、2000年に敦賀事業所が取得したのを皮切りに、2003年までに3事業所の全てで認証の取得し、同規格に準拠した環境マネジメントシステムを構築しています。

各事業所ではISO14001規格に基づくPDCAサイクル(計画→実施及び運用→点検→マネジメントレビュー)を活用することで、環境パフォーマンスの継続的改善を努めています。

大阪事業所



- 認証取得日：2003年10月31日
- 適用規格：JISQ 14001:2004/ISO 14001:2004
- 登録番号：JMAQA-E444
- 製品
 - ・システムキッチン ・室内ドア ・クロゼット
 - ・システム造作材 ・シューズボックス
- 住所：大阪府堺市

敦賀事業所



- 認証取得日：2000年 2月29日
- 適用規格：JISQ 14001:2004/ISO 14001:2004
- 登録番号：JMAQA-E094
- 製品
 - ・フローリング ・パーティクルボード
 - ・一体型床暖房 ・室内階段セット
- 住所：福井県敦賀市

山口・平生事業所



- 認証取得日：2001年12月20日
- 適用規格：JISQ 14001:2004/ISO 14001:2004
- 登録番号：JMAQA-E259
- 製品
 - ・フローリング ・パーティクルボード
- 住所：山口県熊毛郡平生町

:: 環境監査体制

永大産業は環境マネジメントシステム(EMS)を継続的に改善するために、ISO14001の規定に基づいて内部監査を行っています。内部監査は、社内資格である「内部監査員」の試験合格者およびISO担当者で実施しています。当社では内部監査員の育成計画を立て、環境教育を実施するとともに、内部監査員へのフォローアップ研修を行うことで、監査体制の向上を図っています。また外部の審査機関からの評価も参考にして、さらなる環境改善活動に結びつけています。

VOICE
従業員の声

創意工夫で省エネに努力

高圧盤

変電設備

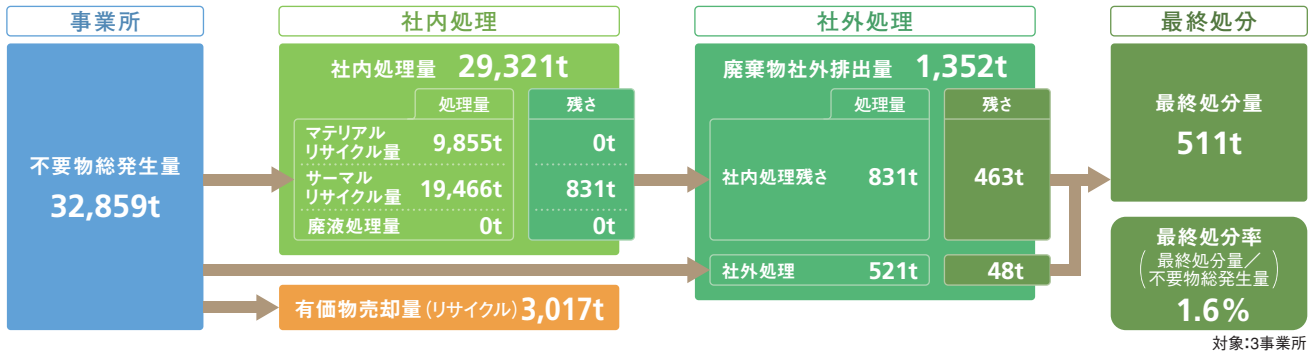
新たに設備を導入しても、あまりエネルギーを消費しないように、環境負荷低減に向けて様々な創意工夫を行っています。大阪事業所ではとりわけ、電気エネルギーの使用抑制に取り組んでいます。

大阪生産管理部 業務改革室
玉城克則

産業廃棄物削減への取り組み

資源の有効利用、および再資源化を図っています

❏ **ゼロエミッション** 永大産業では資源の有効利用を図るとともに、リサイクルを推進することによって、環境に負荷を与えないよう産業廃棄物の削減に取り組んでいます。



『ゼロエミッション』とは、使用する資源を最小限に抑えて廃棄物を削減し、かつ発生する廃棄物の再資源化を進めることで、廃棄物をゼロとする考え方を指します。一般に製造業の場合、最終処分率を2%以下とすることを目安にしており、測定の結果、永大産業の最終処分率は1.6%でした。

❏ 分別活動を徹底

大阪事業所では資源の有効利用を図るため、廃棄物の分別活動に力を入れています。所内にあるリサイクルセンターではこれらの廃棄物を、木材・木質ボードの端材のほか、ビニール、プラスチック、紙、金属など25品目に分別し、再資源化を行っています。こうした活動を継続することにより、廃棄物の排出を少しでも抑えるよう努めています。



大阪事業所
新・リサイクルセンター(分別施設)



リサイクル資源の分別・有効活用を徹底しています。
回収された廃棄物は25品目に分別されます。
(廃プラ4・紙類10・ペットボトル・電線・アルミ・ステンレスなど)

❏ 有効利用

大阪事業所では生産ラインから発生する木質ボードの端材などを用いて、当社製品のための配送用パレットと栈木を作り、廃棄物のさらなる削減に努めています。このパレットは取引先から適宜回収し再利用しますが、再利用が不可能なものについては、パーティクルボードの原材料として、有効利用を図っています。



パレット、栈木を生産

VOICE 従業員の声

廃棄物を 限りなく抑制

分別活動と資源の有効利用を推進するとともに、処理設備の改良、改善を行い、それを上手く活用することで、廃棄物の抑制に力を入れています。

山口生産管理部 生産技術課
嶋田裕之





お客様相談センター

お客様からのご相談に迅速、的確に対応します

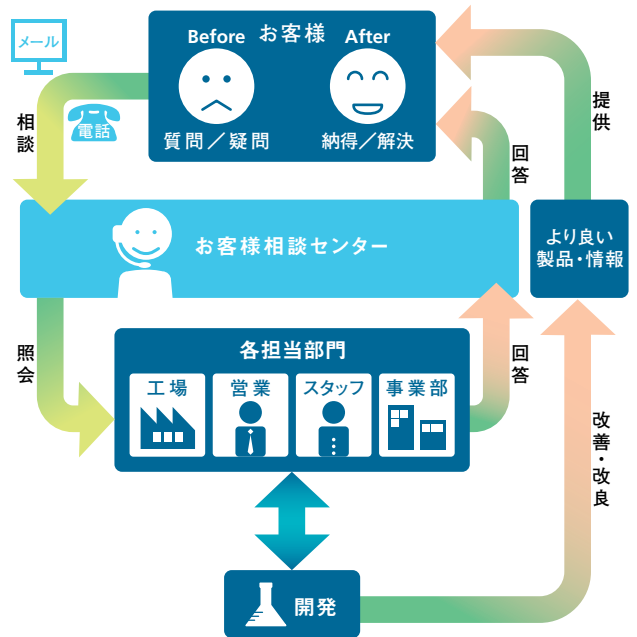


お客様相談センターの取り組み

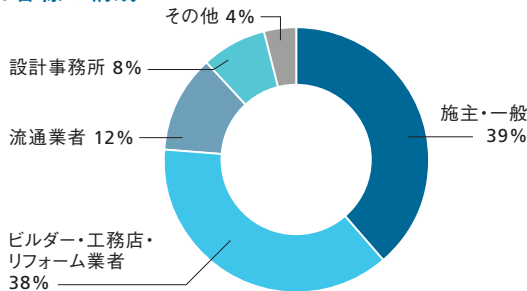
お客様からのご相談に迅速、的確に対応するため、永大産業では「お客様相談センター」を社内に設置しています。当センターには製品知識の豊富なスタッフが常駐し、月間平均約1100件のご相談を受け付けています。2009年度のご相談件数の合計は1万3200件でした。

当センターでは、お客様のニーズを取り入れた新製品の開発や、業務の改善につなげるために、ご相談の内容を分析し、「週報」を通じて社内への情報発信を行っています。またすばやく丁寧に対応できるマニュアルを充実させながら、ホームページの「お客様サポート」のコーナーで、お客様への情報開示に努めています。さらにお客様から依頼のあった部品手配（代引）も同時に行っています。

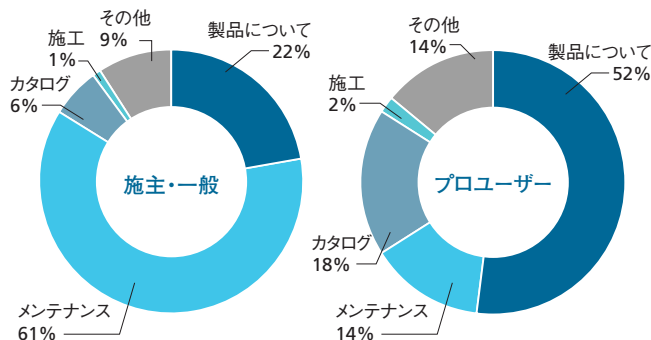
お客様の相談フロー図



お客様の構成



お問い合わせ内容



ご相談内容の60%はメンテナンス

お客様の構成は、40%が施主または一般のエンドユーザーの方々、60%がビルダーや流通業者、設計事務所などのプロユーザーの方々で、この比率は前年度とほぼ変わりませんでした。2009年度のご相談内容のうち、施主または一般のお客様は「メンテナンス」に関わる事柄が61%だったのに対し、プロユーザーのお客様は「製品について」に関する事柄が、52%を占めました。

お客様相談センター

☎ 0120-685-110

受付時間 平日9:00~19:00 土 9:00~18:00
 休業日 年末年始・日祝
 E-mail cs@eidai-sangyo.co.jp

VOICE 従業員の声

お客様の立場で、わかりやすく

末端のお施主様からプロユーザーの方々まで、毎日異なる内容のご相談をいただきますが、お客様の立場にたった、わかりやすい説明を行うよう努めています。

事業推進部 お客様相談センター
水原康子



ショールーム

全国に13のショールームを設置しています

永大産業では、北海道から沖縄まで全国に13のショールームを設置しています。このうち大都市圏にある7ショールーム（札幌、仙台、東京・新宿、名古屋、大阪・梅田、広島、博多）では、豊富な知識をもつ専門スタッフが常駐し、お客様のご相談に応じているほか、お客様に直接製品を見て、触って、その機能を確かめていただくために、製品を多数取り揃え、実際に空間展示を行っております。



名古屋ショールーム



新宿ショールーム



梅田ショールーム

お客様によりよいご提案を [★ショールーム]

大都市圏のショールームでは、お客様によりよいご提案ができるよう、多彩なソフトウェアを取り入れ、パソコン上でシミュレーションを行うなど、様々なご提案を実施しています。



提案書（プレゼンテーションボード）作成



インテリアコーディネートシミュレーション

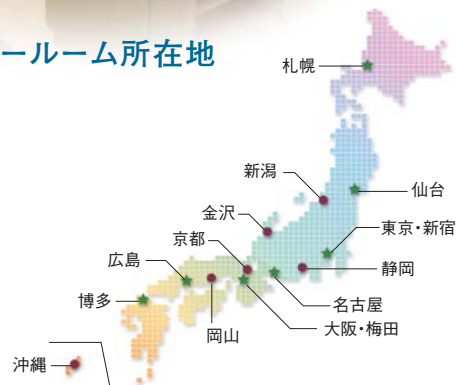
サンプル、カタログを充実 [●ショールーム]

大都市圏以外の6ショールーム（新潟、静岡、金沢、京都、岡山、沖縄）では、主力製品やサンプル、カタログなど様々な資料を取り揃えております。



静岡ショールーム

ショールーム所在地



VOICE 従業員の声

お客様に 満足のいく説明を

お客様と接点のあるショールームでは、数々の展示品やソフトウェアを用いて、お客様全てに、ご満足いただける説明を心がけています。

広島ショールーム 堀川祐子





品質管理

品質管理を徹底させ、安心・安全な製品を提供しています

お客様に安心・安全な製品を提供するためには、全社的な品質管理体制の構築とその運用の徹底が不可欠です。永大産業ではこのような品質マネジメントシステム(QMS)の考え方に基づき、「お客様に安心、信頼、満足していただける製品づくり」を推進しています。

:: 品質基本方針

永大産業ではお客様のニーズにあった製品の開発と、お客様がご使用になって満足していただける製品の提供を目指して、事業所ではISOに準じた品質基本方針と品質基本目標を定めています。また、より質の高いサービスをお届けするため、あらゆる面で継続的な改善を行い、お客様の信頼にお応えします。

品質基本方針

「お客様に対し安心、信頼、満足をしていただける製品を提供し続ける」

品質基本目標

「お客様のニーズに適合しないものを創らない、作れない、流さない」

:: 品質管理体制

永大産業では、製品品質の信頼性を確保するため、設計、製造、出荷における品質の安定と向上に努めています。品質の向上にあたっては、「品質管理規程」を始めとした諸規程によって品質管理の方法を厳格に定めるとともに、品質管理を適正かつ効果的に行うことができるよう、事業所に品質管理委員会を設置して、総合的な視点で品質に関する改善を行っております。さらに、様々な部会を設けてお客様のご意見や製品に対するお問い合わせについての検討を行い、品質の向上に取り組んでいます。

:: ISO9001 認証取得

永大産業では、品質マネジメントの国際規格であるISO9001認証を3事業所全てで取得し、同規格に準拠した品質マネジメントシステムを構築しています。各事業所ではISO9001規格に基づくPDCAサイクル(計画→実施及び運用→点検→マネジメントレビュー)を活用することで、品質パフォーマンスの継続的改善に努めています。

大阪事業所	2001年8月	JMAQA-1103取得
敦賀事業所	2001年7月	JMAQA-1090取得
山口・平生事業所	2005年4月	JMAQA-1908取得

:: MSDS制度への対応

MSDS(Material Safety Data Sheet=製品安全データシート)制度とは、指定化学物質及びそれらを含有する製品を他の事業者へ譲渡、提供する際、その性状及び取り扱いに関する情報の提供を義務付ける制度です。2009年の法改正に伴い、対象となる化学物質が127増えて562物質となりました。事業推進部CS推進室では、接着剤、塗料メーカーからのMSDSを一元管理するとともに、その提出先もデータベース化して、指定化学物質の適正な管理・把握を行っています。



製品安全データシート

VOICE 従業員の声

法にのっとり 適確に対応

特定化学物質に関する政令が改正され、管理すべき対象化学物質が増えましたが、法令を遵守し適正な管理を行って、お客様に安心、安全な製品を提供していく考えです。

事業推進部 CS推進室 林光總



❑ VOC (揮発性有機化合物) について

VOC (揮発性有機化合物) は、室内空気汚染やシックハウス症候群などの原因として、大きな社会問題となっています。永大産業では安心・安全な製品を提供するため、溶剤系塗料を水性塗料に切り替えるなどVOCの低減対策を実施しています。

- 永大産業のVOC対策は、ホームページの【環境について—シックハウス対策】に掲載しています。

❑ ホルムアルデヒドについて

F★★★★

建築基準法ではシックハウス症候群を防止するために、ホルムアルデヒドの放散量の少ない建材を使用するとともに、換気により室内の化学物質濃度を低減するよう義務付けています。永大産業の製品は、ホルムアルデヒド発散等級の最上位規格 (F☆☆☆☆) であり、建築確認の申請時に使用面積計算が不要な規制対象外の製品です。



VOICE
従業員の声

安全な 空気環境を実現

当社では、安全な空気環境を実現させるため、総合研究所で製品に関するVOC放散量測定を行い、基準値以下となるよう管理を徹底させています。

総合研究所 平尾 蓉子



VOC分析機

❑ ホルムアルデヒド以外のVOCについて

4 VOC 基準適合 (木質建材)

トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレンの4VOCについては、「建材からのVOC放散速度基準化研究会」が建材からのVOC放散速度基準を示しており、これに基づいて業界各団体が「4VOC基準適合」の自主表示を行っています。永大産業では「4VOC基準適合」の製品の情報をカタログやホームページでお知らせしています。

低 VOC

4VOCとホルムアルデヒド以外の厚生労働省の指針対象物質については、原材料として使用していないことを製品安全データシート (MSDS) で確認しています。MSDS等で不使用方法が確認できないものは、室内濃度指針値を準用し、小形チャンバー法 (JIS A1901、A1902-1) に準拠した測定方法により、放散量の確認をしています。

- 室内濃度指針値とは、厚生労働省が「人がその化学物質の示された濃度以下の暴露を一生受けたとしても有害な影響は受けないであろう」との判断により設定された値。現在13物質について指針値が公表されています。
- 小形チャンバー法とは、小形チャンパーと呼ばれる容器を用い、その中に入れた試験材料の化学物質の放散量を評価する方法を指します。



小形チャンパー



従業員とともに

働きやすい職場環境づくりや健康管理に力を入れています

永大産業では、従業員とともによりよい企業風土を構築していくための様々な取り組みを行っています

:: 製品研修会を開催しています

永大産業では、営業社員を対象として定期的に新製品の研修会を開催しています。研修会では実際の製品を用いながら事業部門が開発のコンセプト、製品の特徴などを細かく説明します。最近の製品は様々な機能が付加されているため、こうした機能を営業社員がユーザーに分かりやすく説明できるようにするのが、この研修会の大きな狙いです。製品を販売するだけでなく、その製品によって、お客様に対しよりよい提案を行うことを重視しています。この研修会は事業部門の開発担当者が営業部門の声を直接聞く機会でもあり、新たな製品の開発にもつながっています。



:: 表彰制度を設け、改善に努めています

永大産業では、社内で表彰制度を設けています。業績の向上に寄与した販売部門への表彰や、生産性を向上させた製造部門への表彰、個人に対する表彰制度があります。個人に対する表彰では、2005年から新たに「会社への提言」制度を実施しています。これは1年間に2回、会社の発展につながる提言を社内から募るものです。こうした従業員からの問題提起、改善提案を社内の業務改善につなげています。



:: マイスター制度で技術の継承を図っています

永大産業では製造部門で「マイスター制度」を採用しています。この制度は、モノづくりの現場で様々な知識やノウハウを習得し、卓越した技能・技術を有する従業員を「マイスター職」として認定するものです。「マイスター職」は技術者であると同時に、後進の指導にあたり、自らの技術を継承させていくことが求められます。その意味で「マイスター職」は狭き門であり、2009年度の「マイスター職」の人数は4名(前年度からの継続を含む)でした。

VOICE 従業員の声

社員のスキルアップを 支援しています

当社では自己啓発や自己研鑽を目的に、補助金制度を設けており、社員のスキルアップを支援しています。さらに講座を増やして、学びやすい環境づくりを行う予定です。

人事部 人事課 寺田留美



従業員健康管理をサポート

永大産業では従業員全員の健康管理を最重要課題として、本社、各事業所に医務室を設けています。医務室では、経験豊かな看護師が常駐し、従業員の保健指導や健康管理に気を配っています。また各種健康診断とフォローアップのほか、心のケア、体力増進のためのサポート活動を行っています。



本社医務室

本社テニスコート

● 健康普及活動

年1回の法定健康診断や、近年増加傾向にある生活習慣病を予防するための検診、また女性従業員のための婦人科検診を行っています。人間ドッグについては補助金制度を設けています。

● 健康増進サポート

健康増進の一環として、テニスやサッカーなどのサークル活動や、事業所等の健康器具購入をサポートしています。

● 心のケア（メンタルヘルス）活動

ストレス等により心の病が生じがちな今日、当社ではメンタルヘルスケアにも目を向けています。いつでも気軽に相談できるよう、電話（フリーダイヤル）による相談を受け付けているほか、パソコンからのWeb健康相談窓口も設けています。

高齢者の雇用を促進

永大産業では高齢者雇用の受け皿として、2004年3月に人材派遣会社の永大スタッフサービス(株)を設立しました。同社はモノづくりに不可欠な技能を、次の世代に伝承する重要な役割を担っています。また2005年7月に、アウトソーシング業務の請負を行う永大テクノサポート(株)を設立しました。両社はいったん定年を迎えても、健康である限り社会とかかわりをもって働きたいという多くの声に応えたものです。

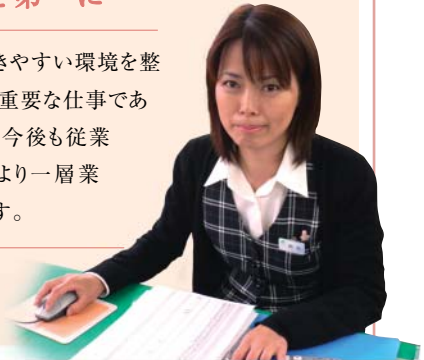
VOICE

従業員の声

従業員の健康を第一に

従業員が健康で、働きやすい環境を整えていくことは非常に重要な仕事であると認識しています。今後も従業員の健康を第一に、より一層業務に邁進する考えです。

山口生産管理部 総務課
岡井美香



従業員の交流会を開催

大阪、敦賀、山口・平生の各事業所では、社内でのコミュニケーションを活性化させる目的で、社内における交流会を実施しています。春には、新入社員を歓迎する「ソフトボール大会」など様々なイベントを開催しています。部門間や、同じ部門でも上司と部下とのコミュニケーションを深めていくことで、事業所内における災害発生の防止や、新製品開発に対するモチベーションの向上を図っています。



地域社会とともに

地域に貢献する企業を目指しています

❖ サッカーを通じて地域交流

山口・平生事業所では、青少年の健やかな育成を目的に、地元少年サッカークラブへ練習場(グラウンド)を提供しています。

またこのグラウンドでは年に一度、大きな地域の大会であるサッカーフェスティバルが開催され、2009年12月に第21回大会を迎えました。

当事業所では施設を快適に利用してもらうため、クラブハウスやトイレなど付帯設備の充実を図っているほか、サッカー経験の長い所員が、少年たちに技術面や試合運びの指導を行っています。さらに所員有志による永大サッカーチームが、地元社会人チームとの試合を通じて、地域との交流を図っています。



サッカーフェスティバル



サッカー用クラブハウス

トイレを新設するなど、サッカー用クラブハウスをより快適に利用してもらえるよう努めています。

VOICE 従業員の声

サッカーを通じ 地域社会に貢献

過去の経験を活かして小学生のサッカークラブチームへの指導を行っています。少年たちの健やかな成長を願いながら、スポーツを通じて地域社会に貢献していきたいと考えています。

山口生産管理部 山口建材工場
渡辺義成



❖ 体験学習(インターンシップ)に協力

敦賀事業所では、毎年インターンシップ(中・高校生など業業についている者の就業体験)に協力し、地域社会との交流を深めています。インターンシップは年2~3回程度行っており、2009年度は地元の中中学生2名、高校生6名に、当社のモノづくりの現場を体験してもらいました。



福井県クリーンアップふくい大作戦に参画

福井県は美しい自然環境を守るため、毎年「クリーンアップふくい大作戦」を実施しています。敦賀事業所は、この環境美化活動に参画し、年4回大掛かりな清掃を実施しています。海開きに近い6月には、事業所員とその家族が日本3大松原のひとつに数えられる気比の松原で海岸の清掃を行いました。また海辺にほど近い社員寮の周囲でも清掃を行い、道路等でのごみ、空き缶拾いや除草などを行いました。



子供達の交通安全のために

山口・平生事業所では、毎年春と秋に実施される交通安全週間に、通学する児童の安全を確保するため、所員が交代で交通安全活動に参加しています。2009年度は4月6日から15日まで、また9月21日から30日まで活動しました。



交通ルールを守り、安全運転を徹底

当社ではまた、自家用車で出勤する社員に、安全運転のためのビラを配付するなどして、運転のマナー向上と事故防止を呼びかけています。飲酒運転に対する罰則が書かれたビラを配付すると同時に、シートベルトの着用、運転中の携帯電話禁止などについて注意を促し、地域での交通事故ゼロを目指しています。



工場見学会を開催

敦賀事業所では当社への理解を深めてもらおうと、一般の方々を招いて工場見学会を開催しています。2009年度は当事業所の近くにお住まいの方をご招待し、当社製品の特色や環境対策などについてご説明しました。



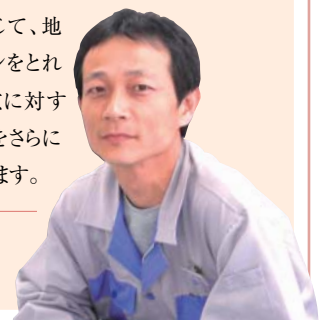
VOICE

従業員の声

地域とのコミュニケーションを大切に

工場見学や体験学習を通じて、地域の皆様とコミュニケーションをとれる場を設け、当社の環境配慮に対する考え方やモノづくりの姿勢をさらに深く知っていただこうと思っています。

敦賀生産管理部 総務課
北川和夫





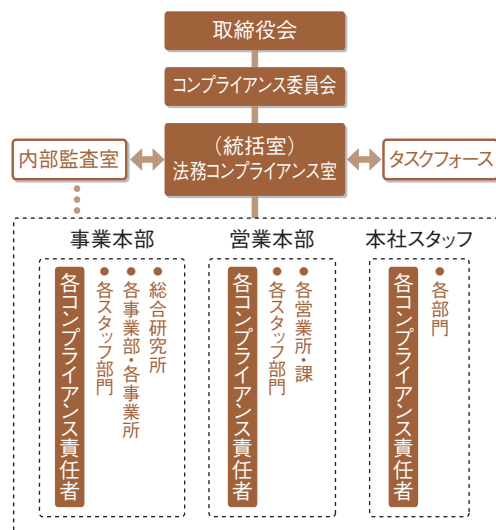
コンプライアンス

コンプライアンス(法令遵守)の強化に努めています

コンプライアンスとは「法令遵守」と訳され、法律を遵守することはもちろんのこと、社内の規程や企業倫理などの規範を守って行動することとされています。永大産業のコンプライアンスは、このような法律や社内規程などの遵守にとどまらず、当社で働くすべての人々が、より高い倫理観・価値観を共有することを目指しています。

全社一丸となってコンプライアンスを実践しています

永大産業では、全社でコンプライアンスを実践できるよう「コンプライアンス・マニュアル」を制定しています。このマニュアルには役員及び従業員の役割のほか、組織体制やコンプライアンス意識高揚のための啓蒙活動についても定めており、「高い企業価値の創造」の実現に向けて活動を行っています。コンプライアンスを実践する体制として、コンプライアンス委員会は、組織横断的にコンプライアンスの具体的な実践計画などの重要事項の協議を行い、法務コンプライアンス室は、統括室として教育、助言などの全社的な取り組みを推進しています。また、タスクフォースは同室に対して、実務面から調査、報告、提案し、コンプライアンスを実践する組織体制を整備しています。また、日常の事業活動で頻繁に起こる可能性のある事例を集めて、判断のよりどころとする事例集を全社員に配布して従業員への教育を行い、身近なレベルでの理解を深める取り組みを進めています。



インサイダー取引の防止

永大産業では、インサイダー取引を未然に防止する目的から「インサイダー取引防止に関する規程」を定め、内部情報の管理や株券等の売買に関する行動基準のあり方を示しています。また「インサイダー取引防止マニュアル」を策定し、朝礼時にマニュアルを復唱して内容を再確認したり、インサイダー取引に関する様々な事例をCD-Rに収めて社内に配付し、従業員の啓蒙活動に力を入れています。

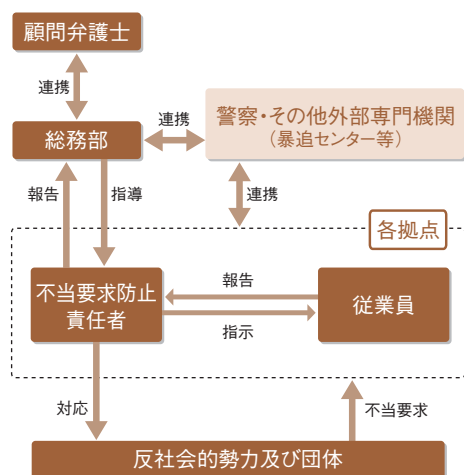


反社会的勢力及び団体に対して毅然とした態度で対応します

永大産業では、反社会的勢力及び団体に対しては毅然とした態度を貫き、断固として対決することが企業の社会的責任を全うするうえで不可欠と考えています。そのため、従業員が反社会的勢力及び団体と関与しないように服務規律として就業規則に定めるだけでなく、これらの団体と向き合うための基本方針や具体的な対応策についての詳細を「反社会的勢力排除マニュアル」に定めました。経営トップから従業員に至るまで、反社会的勢力からの不当・不法な要求に屈することなく、一切の関係を遮断するため、全社一丸となって組織的な取り組みを実践しています。

「反社会的勢力排除マニュアル」基本原則概要

- 反社会的勢力からの不当要求に直接対処する従業員の安全を確保し、組織として対応する
- 反社会的勢力に備え、警察、その他外部専門機関との緊密な連携関係を構築する
- 取引関係を含めて一切の関係をもたない
- 有事において民事と刑事の両面から法的対応を行う
- 反社会的勢力からの不当要求が、事業活動上の不祥事などを理由とする場合でも、事実を隠蔽するための裏取引は絶対に行わない
- 反社会的勢力への資金提供は、絶対に行わない



永大産業企業行動憲章

広く社会に貢献する企業となることを目指しています

永大産業では、コンプライアンスの一環として2004年9月から「永大産業企業行動憲章」を制定しています。この憲章は、当社が事業活動を継続する中で最低限遵守すべき事項として、社内はもとより社外にも公表し、企業の社会的責任としてコンプライアンスに対する考え方や姿勢を宣言しています。

永大産業企業行動憲章

行動憲章は9項目から成り立っています。

1. 企業活動の目的

「木質加工」と「ステンレス加工」に徹する当社は、高い技術力を活かして高機能、高品質、かつ、安全性にも配慮した商品づくりに努め、地球・社会・人との共生を通じ、豊かな社会の実現に貢献することを企業活動の目的とします。

2. 社会規範の遵守

国内外の法令、その他の社会規範を遵守し、公正、透明、自由な競争に基づく企業活動を行っていきます。また、官公庁や各種団体とは健全で正常な関係を保ちます。

3. 環境問題への取り組み

省資源・省エネルギーに努め、温室効果ガスの排出抑制を図ります。同時に廃棄物を削減し、3Rを推進することで、循環型社会の発展に貢献します。

この憲章の適用対象は、永大産業の役員・社員はもちろんですが、嘱託社員・契約社員・パート社員・派遣社員・さらに業務委託契約等に基づいて永大産業の営業所・事業所に常駐するすべての人に及びます。

4. 情報開示

株主はもとより、取引先、地域社会等、企業をとりまくさまざまな関係者とのコミュニケーションを図ります。また、積極的かつ公正に企業情報を開示して、社会からの理解を深めるように努めます。

5. 職場環境

従業員一人ひとりの人間性を尊重するとともに、職場においては安全第一を旨とし、各人が働きやすく、能力を十分に発揮できる職場環境を作ります。

6. 反社会的勢力との対決

反社会的勢力、団体には毅然とした態度で対応し、社会秩序の安定と維持に努めます。

7. 地域・社会への貢献

国や地域の多様性を認識し、国際社会の一員としてその文化や慣習を尊重し、その地域の発展に貢献します。また、良き企業市民として積極的に社会貢献活動に参加します。

8. 資産・権利の管理並びに保護

知的財産を含む自己及び他者の資産・権利の価値をよく認識し、それらを公正に使用するとともに厳正に管理・保護します。また、情報の重要性を認識し、適正、かつ厳重な管理を行います。

9. 問題解決

本憲章に反する事態が発生したときには、経営者自らが問題解決と再発防止にあたり、社会にも十分理解される形で事態の解決を図ります。また、権限と責任を明確にした上で、自らを含めて厳正な処分を行います。

社内外への宣言的機能

永大産業のコンプライアンスに関する姿勢を全従業員に宣言するとともに、企業の社会的責任として、広く社会に対し、コンプライアンスに関する姿勢や考え方を宣言しています。これは当社のホームページにも掲載しています。

行動の指針としての機能

会社が遵守すべき法令及び倫理的事項を明らかにすることで、経営のトップをはじめ、役員、従業員の一人一人が倫理や企業理念に則った行動をするための指針を示しました。「永大産業企業行動憲章」をより身近なレベルで理解するために、日常の事業活動で頻りに起こる可能性のある事例を集めて、判断のよりどころとするための事例集を作成して全従業員に配布しています。各々のコンプライアンス責任者は、憲章と事例集を中心に、従業員への教育を行っています。



EIDAI コンプライアンスカード

カードタイプのものを全従業員に配布して、コンプライアンスへの意識の浸透を図っています。

VOICE 従業員の声

さまざまな 啓蒙活動を推進

全ての社員が法令を遵守し、高い意識をもって業務に励むことができるよう、これからも様々な啓蒙活動を推進していきたいと思っております。

経営企画部 法務コンプライアンス室
渡辺亮太郎



コーポレートガバナンス

監査・監督機能を強化し経営活動の透明性に努めます

永大産業は、企業価値を高め、社会やさまざまなステークホルダーから信頼されるために、内部統制システムを含めたコーポレートガバナンス体制の充実が、経営の最重要課題であると考えています。

ⅱ コーポレートガバナンス体制

永大産業は、2010年6月29日現在で取締役6名、監査役4名（うち社外監査役2名）の体制になっています。コーポレートガバナンス体制充実のために、経営監視機能の強化、経営効率の向上等に取り組むことで、企業価値の向上を目指しています。

取締役の任期は1年としており、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制の構築を図るとともに、年度における取締役の経営責任をより一層明確化させ、株主総会での信任の機会を増やし、株主による経営監視体制を強化しています。

また、取締役会には2名の社外監査役が出席し、専門的な視点や客観的な立場から必要に応じて意見を述べるなど、社外からの監視・監督が十分に機能する体制となっています。さらに、監査役は取締役会の他にも重要な会議に出席し、取締役の職務執行について厳正な監視を行っています。

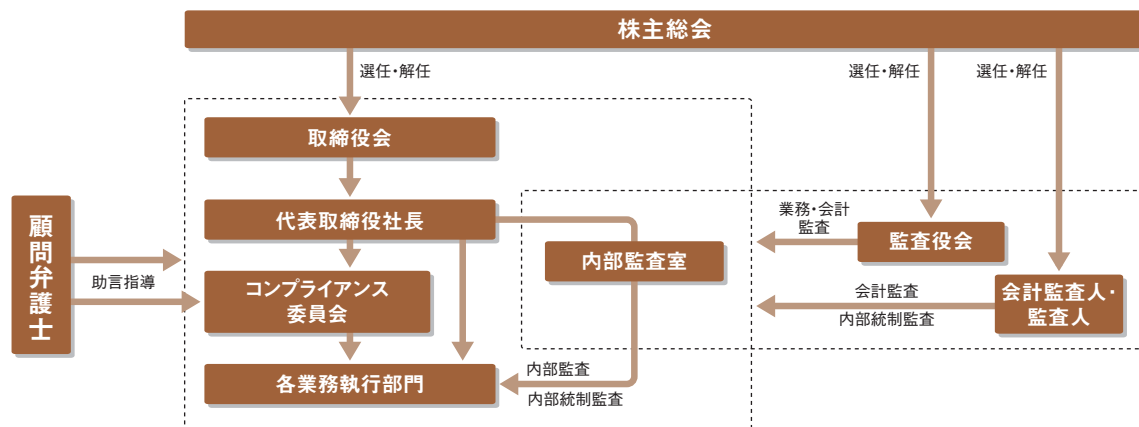
ⅱ 内部統制システムの基本方針

永大産業は、内部統制システムの整備に関する基本的な考え方を「内部統制システム構築の基本方針」として、経営管理体制やリスク管理体制など10項目を定めています。

内部統制システム構築の基本方針

1. 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
2. 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
3. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
4. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
5. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
6. 当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
7. 監査役を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項
8. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
9. 監査役による監査が実効的に行われることを確保するための体制
10. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及び体制の整備状況

コーポレートガバナンス及び内部統制の体制図



リスクマネジメント

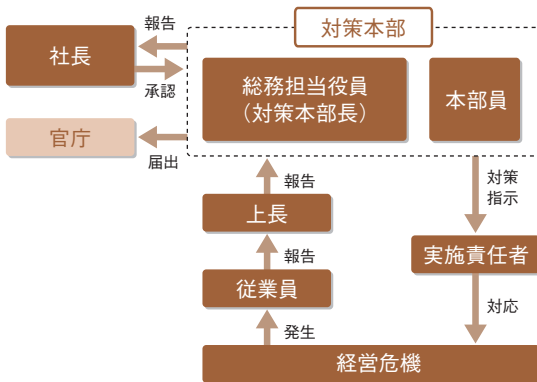
さまざまなリスクに対する危機管理体制の強化を図っています

経営危機管理

永大産業では、リスク管理意識の向上に取り組んでおり、経営危機発生時の回避、リスクの未然の防止、経営危機発生時の損失の最小化を期すため、「経営危機管理規程」を定めて対応しています。

この規程ではすべての従業員は常に経営危機につながる事象の発生防止に努め、これらの発生に対し万全の注意を払わねばならないとしています。万一、経営危機が発生した際には、直ちに対策本部を設置して危機の解決もしくは回避のために全力を尽くすよう定めています。

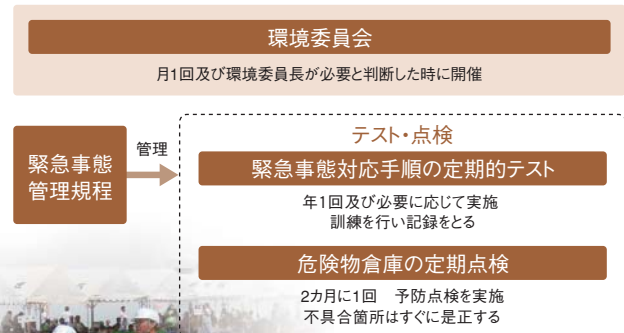
経営危機管理体制



事業所におけるリスクマネジメント

永大産業では、環境マネジメントシステムに則り、緊急事態が発生または発生する恐れのある場合や、官公庁・地域住民等から緊急要請を受けた場合を想定し、事業所別に緊急事態管理規程を定めています。

各事業所では、この緊急事態管理規程に基づき、近隣に影響を及ぼすと予測される事態や、周囲に公害発生をもたらす施設に対して、あらかじめそのリスクを抽出し、特定しています。これらのリスクを認識したうえで、事態発生時の回避につとめるとともに、発生した場合の迅速な対応ができる体制をとっています。



個人情報保護

永大産業では、個人情報保護に関連する法令を遵守し、個人情報を保護することが事業活動の基本であり、社会的責務であると考えています。

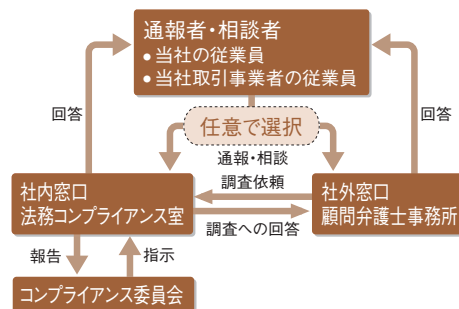
安全管理に関する「個人情報保護基本規程」を制定し、基本方針に基づき、取得する個人情報(ウェブサイトから提供された個人情報を含みます)について、個人情報を取扱う部門ごとに管理責任者を置き、適切な管理、監督に努めています。また、個人情報の提供先との間において、秘密保持契約の締結等の方法により、お客様の個人情報を保護するための適切な管理を実施しています。

さらに、お客様の個人情報への外部からの不正なアクセスや漏洩等を防止するために、セキュリティの維持・強化にも努めています。

- ホームページの「プライバシーポリシー」に詳細を掲載しております。

内部通報者保護制度

永大産業では、2006年4月施行の「公益通報者保護法」を遵守するために「内部通報者保護規程」を定めています。通報者・相談者は、会社の中で法令等に違反する行為が生じている、または生じようとしている場合に、社内窓口・社外窓口のどちらにでも通報・相談することができます。なお、通報者・相談者が通報により不利益な扱いを受けない仕組みを構築しています。



環境報告

環境トピックス

環境とともに

社会性報告

従業員とともに

地域社会とともに

マネジメント

サイトレポート

永大産業グループ会社の概要をご紹介します

小名浜合板株式会社 東日本における生産・物流拠点



会社概要

本 社 〒971-8183
 福島県いわき市泉町下川字田宿1-1
 TEL : 0246-56-6391(代) FAX : 0246-56-0329
 資 本 金 3億3,750万円(2010年3月現在)
 従業員数 167人(2010年3月末日現在)
 事業内容 1.パーティクルボードの製造販売
 2.収納部材および造作部材の製造販売
 3.階段部材の製造販売

TOPICS!



パーティクルボード工場内の汚泥(スラッジ)乾燥設備の処理能力をアップさせ、09年度における汚泥の総排出量を、前年度比33t削減しました。今後も廃棄物を極力出さないよう努める考えです。

INPUT

エネルギー投入量	
種 別	使用量
購入電力	15.2千MWh
揮発油	14kl
軽油	34kl
灯油	53kl
水	105千m ³

OUTPUT

温室効果ガス排出量	
	8,100t-CO ₂
廃棄物の排出量	
最終処分量	93t



パーティクルボード

エヌ・アンド・イー株式会社 国産材を活用したMDFを生産



会社概要

本 社 〒773-0020
 徳島県小松島市和田津開町字北395-6
 TEL : 0885-37-1153(代) FAX : 0885-37-3180
 資 本 金 37億5,000万円(2010年3月現在)
 従業員数 73人(2010年3月末日現在)
 事業内容 MDFの製造販売

TOPICS!



間伐材をはじめとする国産材を積極的に利用することで、日本の森林育成、ひいては地球温暖化防止に貢献をしています。2009年度にはMDFの原材料に関し、国産材85%利用を達成しました。

INPUT

エネルギー投入量	
種 別	使用量
購入電力	14.6千MWh
揮発油	61kl
軽油	26kl
LNG	7,017t
水	155千m ³

OUTPUT

温室効果ガス排出量	
	23,923t-CO ₂
廃棄物の排出量	
最終処分量	412t



NEOボード

ホームページ紹介／編集後記

ホームページを通じて、広く情報を公開しています

永大産業ではホームページを随時更新し、広く当社に関する情報を公開しています。トップページから必要な情報に直接アクセスでき、また関連情報にすばやく移動できるよう工夫しています。

一般のお客様には、動画を用いた製品紹介のページや、実際に製品を確かめることができるショールームなどの情報を掲載し、当社の製品の特色をより一層理解していただけるよう内容の充実を図っています。

また建築業に携わるプロユーザー様には、製品画像、CADデータのほか、施工・取扱い説明書などをご用意し、提案書作成に必要な情報をサポートしています。

当社ではホームページの内容をさらに充実させ、これからもお客様にご満足いただける情報をお届けしていきたいと考えています。



環境社会報告書2010 Web版

この「環境社会報告書2010」はホームページでもダウンロード(PDF形式)できます。

永大産業ウェブサイト <http://www.eidai.com>

トップページ



環境について



環境社会報告書2010
Web版



編集後記

「環境社会報告書2010」を御覧いただき、誠にありがとうございました。編集過程では、機会あるごとに編集チームが取材現場に赴き、現場の担当者とコミュニケーションをとりながら取材活動を行いました。その意味で編集チームとしても愛着のあるものとなり

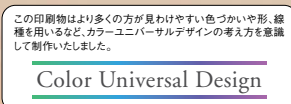
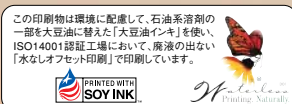
ました。これからさらにステークホルダーの皆様に見やすく、わかりやすい報告書を目指してまいります。皆様からのご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

EIDAI

<http://www.eidai.com>

永大産業株式会社

〒559-8658 大阪市住之江区平林南2-10-60 TEL 06-6684-3000(代)
お問い合わせ先：経営企画部 CSR推進室 TEL 06-6684-3062 FAX 06-6684-3068



A591Ze1009dnDN第1版

2010.09